

# 秋晴れの体育の日、10月10日に「おもち祭り」を開催！

全国餅工業協同組合では2016年10月10日(月・祝)の「おもちの日」、秋晴れに恵まれた千里セルシー(大阪府豊中市)にて、スポーツには“元気の源”おもちパワー！「おもち祭り」を開催しました。

## 日本初の巨大ニュータウンのど真ん中で“おもちパワー！”

大阪市の北側に位置する千里中央駅は、昭和30年代に日本初の大規模ニュータウンとして誕生した千里ニュータウンの中心地です。新大阪や梅田から電車一本で20分以内の好立地にあり、駅前にはショッピングモールやデパート、スーパーマーケット、医療機関、文教施設などが集まり、近年では高層マンション化も進んでいます。三連休の終わりとなる10月10日、千里中央駅に直結する複合商業施設・千里セルシーには家族連れなど多くの買い物客が訪れ、全国餅工業協同組合が主催する「おもち祭り」のさまざまな催しを楽しみました。

## メインステージでは大もちつき大会を開催！

午前11時半、ステージ前には午前中にもかかわらず幾重もの人垣ができ、軽快な祭り囃子風の音楽とともに「おもち祭り」が幕を明けました。今回、司会者とともに盛り上げ役として参加したのは落語家の笑福亭生喬師匠。なんと上方落語協会では“餅つき部長”と呼ばれるほどの餅愛好家で、毎年大阪の「天満天神繁昌亭」という寄席の前でお餅つきを行っているのだそうです。

続いて全国餅工業協同組合の佐藤功理事長が登壇し、ご来場した方々への謝辞とともに全国17社で組織される全餅工の紹介や、安心・安全な国内産水稲もち米100%で作られている商品のみに表示される品質保証の赤いシンボルマークのPRを行いました。

そして、遂にお待ちかねの餅つきがスタート。全餅工高橋秀明さんの口上の下、威勢のいい掛け声とともに全餅工餅つき隊が登場し、真っ白な湯気を立てた餅米が運び込まれます。今回のもち米に選定されたのは“もち米の王様”とも称される新潟県産「こがねもち」。伸び・コシ・風味、どれをとっても最高級の一品で、解説を聞く人々の興味も一段と高じていきます。

極上のもち米は、ステージに設置された5組の本格的な臼と杵で“コネ(捏ね)”からはじまり、会場に集まった皆さんの「よいしょ！」という声援に合わせた“本つき”が行われて、次第に艶と粘り気を帯びていきます。

## チビッコたちが餅つきにチャレンジ！

本つきの後は、子どもたちによる「ちびっこもちつき体験」の時間です。居合わせた殆どの子どもたちが参加を希望するなかで、出来るだけ大勢に体験してもらおうと苦心しました。杵を持ち上げる我が子の姿を撮る親御さんたちの表情も真剣そのものです。興奮冷めやらぬ子どもたちからは、「はじめてだったけど、またやりたい！」「今度は一人でちゃんとしてみたい」「子供会で一度だけやったことがあるけど、今日は杵と臼が本格的でおもしろかった」など、さまざまな感想を頂きました。このような日本古来の伝統文化に接してもらうことによって、日本の将来を担う大切な子どもたちに、餅文化を末永く継承して頂けるようにと願い、全餅工餅つき隊も精一杯のサポートを行いました。



## やっぱり美味しい！お餅の美味を実感

最後に“仕上げつき”を行い、もちの仕上がり具合を入念にチェック。おもちを知り尽くした全餅工だからこそ実現できる、クオリティーの高いおもちの完成です。こうしてつき上がったおちは、あんこときなこの2種類に味付けされて来場者に振る舞われました。大もちつき大会はこの日4回実施されて、合計約2千食分をご提供させて頂きました。



## スポーツ時に最適なおもちレシピをご提案！

大もちつき大会の合間には、数々のスポーツ選手が実践していることで話題の、カーボローディングにぴったりなおもち料理を提案する「餅カーボ料理紹介コーナー」を開催しました。おもちを熟知しているのはもちろん、さまざまな食材との組み合わせや栄養面についての造詣が深い全餅工の福島佳奈さんが解説を担当。調理方法やご家庭で実践する場合のポイントを紹介しました。



大阪高槻の郷土料理である「うどんぎょうざ」からヒントを得て考案した『もちぎょうざ』、関西地方でお正月の雑煮に使われる西京白味噌を使用した『ごまみそだれもち』、そして朝ごはんや運動前のおやつにオススメの『もちりバナナパンケーキ』の3品を順次ご紹介しました。



大阪市内からショッピングで訪れた4代のご夫婦は、自宅にモッフルメーカーを持っているほどお餅が大好きで、おもち祭りに偶然遭遇してびっくりなようす。もちぎょうざを試食して、「見た目よりもすごく簡単！今度、自宅でも作ってみます」とのことでした。

## 一日中おもちの魅力を楽しむ“お餅の祭典”

この他にも、お餅の魅力を紹介する展示パネルからクイズの答えを探し出して参加する「10月10日はおもちの日大抽選会」も開催。豊中市内から訪れた75歳の男性と、箕面市から遊びに来た母娘の計2組様がみごと1等賞に当選し、切り餅一年分をプレゼントさせて頂きました。



さらに、会場内にはご利益満点のおみくじが引ける「おもち大明神」など、お餅にまつわるさまざまなコンテンツが用意されて、千里中央駅前のセルシー広場は「おもちの日」の雰囲気一色となり、お餅の魅力を満喫できる場として多くの方に楽しんで頂きました。



全国餅工業協同組合では、今後も「10月10日はおもちの日」であることと同時に、一年中いつでも活用できるお餅の魅力や日本古来の餅文化の大切さを、多くの皆様に向けて発信してまいります。